

●これは、「埼玉県中学校教育課程指導資料 平成22年3月」のP.152～154を基に、加筆・修正して作成したものです。言語活動として「実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動」を、言語材料として「受身を通して指導するもの」を取り上げています。展開中の1から4は以下の【課題解決のための授業改善の視点】のそれぞれの取組です。

【課題解決のための授業改善の視点】

- 1 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動
- 2 体験的・問題解決的な学習
- 3 習得と活用をつなぐ学習活動
- 4 内容が明確で授業に生かせる宿題

【本時の目標】

- (1) 異文化での生活に困惑する留学生の心情を読み取ることができる。
- (2) 受動態の文の意味や用法、言語構造を正しく理解することができる。



過程	学習活動	学習内容	指導上の留意点 ◎学力向上プランとの関連 ★3つの達成目標との関連 ○評価
ウォームアップ 10分 4	1. あいさつ《一斉》 2. チャンツ《一斉・ペア》 3. スリーヒント・クイズ《ペア》 内容が明確で、前時の復習等、授業に生かせる宿題を出しましょう。	(省略) <u>You Look Wonderful Today</u> (Small Talk: More Jazz Chants)を歌う ・宿題として作成した、how(what) to~の文型(前時に学習)を用いたスリーヒント・クイズ("Who is this?")をペアで出題する。 (例) 1. He is in the movie. 2. He knows how to sail the ship. 3. He is the captain of Black Pearl.	・指導上の留意点 ◎学力向上プランとの関連 ★3つの達成目標との関連 ○評価 ・英語の授業の雰囲気をつくる。 帯活動で、既習の学習内容をスパイラルに繰り返し指導していきます。その中で言語材料の定着を図るとともに、4技能を総合的に指導し活用を通して定着を図ることも大切です。 ★相手の意見を正しく聞き取ることができる。話そうとすることを聞き手に正確に伝えることができる。
導入 15分 1	4. 新出文型の導入《一斉》 (1) 口頭導入 (2) 意味の確認 (3) 模倣練習 (4) 文型の説明	(絵の一部を提示) What is this? It is <i>tatami</i> . It is seen in Japanese houses. 【板書計画】	・物を話題の中心に据えるよう留意しながら、自然な場面を設けて目標文を導入する。 ・必要に応じて目標文を繰り返して聞かせる。 ・説明していた物を提示するとともに、ヒントの内容を想起させる。 ・目標文を正しいリズムで言わせる。
3	5. 文型練習《一斉・ペア》 (英文の一部を入れ替える) (1) be 動詞の選択 (2) 過去分詞の入れ替え (3) 3文解説 絵を見てそれを相手に説明する練習 習った英語をすぐに使用する活動を通して、習得と活用をつなぎます。	(例) A: This is an interesting game. B: Yes. It's <u>played</u> all over the world. (3文解説) ①情報を絞り込む1文で構成する。 It is a building. ②特徴を説明する2文で構成する。 It is seen in Tokyo. It is very tall.	☆Today's Target : 「受け身」の文とは? It <u>is seen</u> in Japanese houses. それは 日本家で 見られる <u>be 動詞 + 過去分詞 = ~される(された)</u> ☆be 動詞の変化1 : 主語の単数・複数で ☆be 動詞の変化2 : 現在形・過去形・(未来形)で □本文のキーワード ・ ・ ・ ・

<p>展開 20分</p>	<p>6. 本文の内容理解《一斉・ペア》 (1) 新出語句の口頭導入 (2) 本文の概要の導入 (3) 黙読 (4) 音読</p>	<p>(省略)</p> <p>評価規準に達していない生徒には、具体的な支援の手立てを講じましょう。</p> <p>導入では、文字情報は示さず、「聞くこと」を基本とし、習った情報を活用させながら、本文の概要を推測させることが重要です。聞き取ることができたキーワードを取り上げて、板書することも積極的な態度を育てることにつながります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手際よく提示し、練習量を確保する。 ・登場人物の心情に留意させる。 <p>○受動態を用いた本文の概要を正しく理解できる。 (L) (R) (理) [記述分析]</p> <p>評価場面1 (評価規準) 本文や日本のものを紹介する英文の概要を正しく理解できる。 (評価方法) ・発表内容、ワークシートによる観察 ・机間指導による観察</p> <p>(手立て) ・評価Cの生徒には、キーセンテンスの日本語訳を与える。 ・評価Bの生徒には、キーワードになる語をヒントとして与える。 ・評価Aの生徒には、内容理解に関わる英語</p>
<p>2</p>	<p>7. 『これなあに?』 《一斉・ペア》 (1) 日本のものを説明した読解教材を提示する。 (2) 受動態表現を指摘させる。 (3) 説明しているものを推測させる。</p>	<p>体験的・問題解決的な学習として、学んだ表現を、読む活動に活用しながら説明しているものを推測させています。</p> <p>It is a kind of food. It is used as a spice. It is eaten with sushi, sashimi, and so on. It is spicy, so many children eat sushi without it. This kind of sushi is called <i>sabi-muki</i>. It grows in the small cold clean rivers. Outside of it is light brown, and inside is light green. We eat the green part. When we eat a lot, you will be excited!</p> <p>学んだ文構造は、繰り返し活用することで習得できるので、家庭学習などを有効に活用し、表現の習慣化を促すような指導を計画的に行うことが大切です。</p>	<p>○正しい強勢やイントネーション、区切りなどを意識しながら音読させる。 ・必要に応じて文字と音とのつながりについて個別指導にあたる。</p> <p>○受動態の文をあげることができる。(R) (言・文) [記述分析] ・積極的に練習に取り組めるよう、必要に応じて未習語の意味を示す。</p> <p>評価場面2 (評価規準) 受動態の文構造を正しく理解している。 (評価方法) ・ワークシート、机間指導による観察 (手立て) ・評価Cの生徒には、キーセンテンスの日本語訳を与える。 ・評価Bの生徒には、未習語の意味を与える。 ・評価Aの生徒には、受動態の表現を用いた英文を作成させる。</p> <p>★先生の話や友だちの発表をしっかりと聞き、発表することができる。</p>
<p>1 整理 5分 4</p>	<p>8. 学習の整理《一斉》 (1) ノート整理 (2) 学習の見直し (3) 宿題の提示</p> <p>9. あいさつ《一斉》</p>	<p>板書によって、1時間の授業の振り返り、学習内容の確実な定着を図りましょう。</p> <p>本時に学習した受動態表現を用いたスリーヒント・クイズ("What is this?")の作成を課題とする。</p>	<p>★正しく書き取らせる。 ・本時の活動についてのコメントを与え、次時の予告をする。 ○内容を整理しながら、5単語以上の英文など、ある程度まとまった分量を書く。</p>